

連載「ジオと喜界島」

第8回「ジオと未来」

喜界島サンゴ礁科学研究所 新川 奈緒

最終回では、喜界島サンゴ礁科学研究所(以下「サンゴ研」といいます。)の渡邊剛理事長に「ジオ(大地)と未来」についてお話を伺いました!

—渡邊さんが感じた喜界島のジオとは?—

渡邊 : 喜界島の全てがジオ!日々ジオを感じています。島を歩けば、サンゴの石垣や大地からわき出る水を見て、海・サンゴとの関係性がよくわかります。そして、それぞれ特徴を持った集落が沢山ありますよね。そんな風に自然・文化が混じり合って存在する喜界島自体がジオであり、それらはサンゴというひとつのキーワードで結ばれています。

—そんな豊かな喜界島と、サンゴ研は今後どう関わっていきたいですか?

—

渡邊 : 島の皆様と一緒に未来を考えていきたいし、島と外をつなぐ架け橋になりたいです。僕が喜界島に初めて訪れた7年前に衝撃を受けたのは、研究者にとって喜界島はサンゴ礁研究の聖地にも関わらず、島の人たちにあまり研究成果が届いていなかったことです。サンゴ研と活動すること

で、島の魅力を再発見してほしいです。

また、我々は「演劇」で研究成果を表現することで、地域の方と研究者をつなぐことに挑戦しています。若者が「クールだ!」と思うものを作りたいですし、そんな活動を通して島のことを知り、『喜界島って素晴らしいんだ!』と感じる心を次世代に託したいです。そういうことが誇りにつながって、島の素晴らしさを残していくのでしょうか。

—「100 年後に残す」がサンゴ研の理念ですが、将来、喜界島はどんな島になっていてほしいですか?—

渡邊：喜界島のことを知れば知るほど、新しいことを発見します。そんな面白さがずっと残ってほしいですね。そして、島の人は何千年も前から、持続的に、また自立的に生活をしてきました。つかみ所のない未来のように見えるけど、喜界島にいると『大丈夫なんじゃないかな』なんて思えます。サンゴ研、そして喜界島が、未来を考え続ける人が集う場になってほしいです。

喜界島の素晴らしい自然(ジオ)と文化を 100 年後にも残しましょう!

